

* * * *

中南米産のヤスデゴケ属のうち、長い附属物を葉基部の背腹両面につける点で他からひどく変った種がある。*Frullania mirabilis* と *F. pendulostyla* の両種がそれで、私は(1)この両種は同種と考えてよいのではないか、(2)この附属物のうち腹面から見えるものは stylus かどうか、一以上の 2 点を調べてみたいと思っていた。*Frullania* の或種や単型属の *Steereea* では stylus が大形となり、形が複雑化して、クサリゴケ、グラマゴケモドキその他の一般の苔類の stylus とは相当異っていて、以前からはっきりさせたいと思っていたので、この点も考えた。借覧した標本、*F. mirabilis* は Stephani がそれを基にして本種をペルーから記録した標本で、*F. pendulostyla* はタイプであった。どちらも古い茎の断片わずかばかりであって、充分な研究は出来なかつた。然し Jack & Stephani (1892), Stephani (1911, 1924) の考えたような stylus ではなくて、Clark & Svhla (1948) や Stotler (1969) の見解が正しいと思われた。Clark & Svhla はこの附属物が stylus ではなく、葉の基部の附属物といって、それが葉の上片の附属物か下片の附属物かの断定は慎重に保留したが、Stotler ははっきり葉の上片の附属物といった。私は Stotler の見解でよいと思う。

上記の標本を調べ、文献を参照した結果、前述の 2 種は同一であり、そして新しい節を代表するに足るものと考えて、sect. Mirabiles を提案した。また一般に stylus と呼ばれているものを 2 分する必要を認め、必要な場合大型のものを stylides と呼ぶことを提唱した。そしてこの 2 型はその発生の起源に於ても異なるものと考えた。

□志村義雄：日本シダ植物生態写真集成、B5判約 600 ページ、1972年12月、採集と飼育の会発行、¥ 7,000 円。著者は静岡大学教授、20余年にわたって全国のシダ植物を調査研究したかたわら、撮りためた写真を、分類順に並べて出版したもの。原色写真 4 ページ (6 図版)、本文写真 530 ページ (610 図版) がおもな内容で、各種についてキャビネ版くらいの写真 1 枚、ものによっては 2~3 枚、または小さい接写の付いたものもある。シダの種類は日本に自生するもの 520 種で、北海道から奄美群島に及び、ほとんど全部が著者自身の撮影によるものである。写真はどれも非常によく撮れていて印刷もよく、普通の図鑑ではよくわからない葉の出方や傾きなど、それに葉のつやなどもよくわかる。また最近発表された種や他の書物にない種などもあって役に立つ。説明は簡単ながら学名 (出典も)、和名などのほかに、撮影地の環境や月日と、分布ならびに生態を記録してある。生態には写真に出ない色、地下部、繁殖型、胞子の熟期、その他注意すべき点などが述べてあるので、生き生きした写真を一そうわかりやすいものにしている。巻末に「日本産シダ植物総略目録」として本書に写真のないものも含めて、771 種 (内 105 種は雑種) が載せてある。これは現在最も新しい日本のシダのリストである。

(伊藤 洋)